

HIROSHIMA ART PROJECT 2007



- 開催結果報告書 -

広島アートプロジェクト実行委員会

- 事業概要 -

—はじめに—

広島市立大学芸術学部では、平成19年（2007年）4月1日から4月22日までの間を会期として、「旧中工場アートプロジェクト」を実施しました。

このプロジェクトは、ゴミの焼却プラントであった旧中工場を中心に、同工場のある吉島地域、旧中工場と同様に機能停止施設の一つである旧日本銀行広島支店の3つの会場において、それぞれの特色を打ち出しつつ作品展示などを行うアートプロジェクトで、アートの観点から地域の活性化を図り、併せて地域の方々と協働して活動できる人材を育成することを目的としたものです。

実施にあたっては、芸術学部現代表現領域の教員・学生を中心に、関係者で実行委員会を組織し、また多くの企業から協賛をいただきながら、このプロジェクトに取り組んでまいりました。入場者総数は5,000人を超え、会場で実施したアンケートでは、「このようなアートプロジェクトに今後も期待する」と回答された方が93.1%に上るという結果となり、このプロジェクトに対する関心の高さ、反響の大きさを物語っているものと受け止めています。

しかしながら、このプロジェクトを通じて、真に地域活性化・地域再生に資することができたか、まちづくりに貢献することができたか、という問いかけへの結論を見出すには時期尚早であり、こうした取組を継続して実施していく中で、地域再生への機運も醸成されていくものではないでしょうか。その意味では、今回のプロジェクトの反省点などを踏まえながら、次の取り組みへと継続していく必要があると考えています。

また、人材育成という点では、地域住民と協働し、アートプロジェクトをマネジメントできる人材が着実に育ちつつあり、こうしたプロジェクトの経験をさらに積んでいくことにより、卒業後も、地域でのさまざまなイベントをプロデュースし、実践することで、地域の核として活動できる人材へと育ってくれるものと確信しています。

芸術学部では、こうしたアートプロジェクトを、今後も積極的に実施していくことにより、地域の活性化と人材育成に微力ながら貢献していくとともに、学部の念願である地域におけるアートの役割を考え、地域の再生につながるアートセンターの実現に向け取り組んでまいりますので、今後とも、皆様からのご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成19年（2007年）7月 31日
旧中工場アートプロジェクト実行委員会委員長
広島市立大学芸術学部教授
大井 健次

[名称]

HIROSHIMA ART PROJECT 2007 旧中工場アートプロジェクト
HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

[総合ディレクター]

柳 幸典

[開催概要]

企画展1「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展

2007年4月1日（日）～4月22日（日）10:00-17:00（最終入場は閉場の30分前まで）

旧中工場プラットホーム（広島市中区南吉島1丁目4-2）

観覧無料/会期中無休

企画担当：岩崎貴宏（広島市立大学芸術学部 非常勤助手 平成19年3月現在）

主催：旧中工場アートプロジェクト実行委員会

共催：広島市立大学芸術学部 現代表現領域

助成：Asahi アサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団

協力：アートサポーターズ@広島

[参加作家]

照屋 勇賢

トム・フリードマン

藤 浩志

アンドレアス・スロミンスキー

しばたゆり

池田朗子

狩野哲郎

浅井裕介

平野薫

岩崎貴宏

佐藤紫寿代

友枝望

矢田雅樹

祐源紘史

古堅太郎

棚次理

向井華子

米倉大五郎

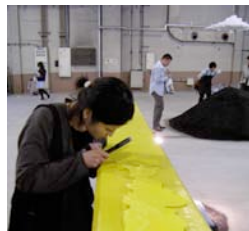
シゲフジシロ+スウ^ン・ギースマン

野口哲也

ミヒヤエル・オットー

瀬戸理恵子

嶋田美緒



企画展2 「わたしの庭とみんなの庭」展

2007年4月1日（日）～4月22日（日）10:00-17:00

広島市中区吉島学区・吉島東学区各所

観覧無料/会期中無休（展示場所によっては制限あり）

企画担当：今井みはる（広島市立大学大学院 現代表現領域 平成19年3月現在）

中村圭（広島市立大学芸術学部 非常勤助教）

企画サポート：岡本芳枝（広島市文化財団 文化事業部事業課 学芸員）

主催：旧中工場アートプロジェクト実行委員会

共催：広島市立大学芸術学部 現代表現領域、広島市吉島公民館、（財）広島市ひと・まちネットワーク

協賛：株式会社きなり

助成：Asahi アサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団

協力：アートサポーターズ@広島、広島市中区光南4・5丁目町内会、吉島東学区老人会

[参加作家]

淀川テクニック

沖中志帆

北川貴好

浅井裕介

SUIKO

SUIKO, EMAR, TENGA&MOTEL

丸橋光生

板倉優子

吉田樹人

大田祐子

高橋佳江

矢田将樹

山口景子

今井みはる

丸山純子

福田恵

Nadegata Instant Party

福永敦

泉山朗土

鰐澤達夫

狩野哲郎

しばたゆり

藤江竜太郎

ガンベロトンダ

上田博文+竹田直樹

西野達（特別友情参加作家）



サテライト企画「金庫室のゲルトシャイサー」展

2007年4月1日(日)～4月22日(日) 10:00-19:00 (最終入場は閉場の30分前まで)

旧日本銀行広島支店 (広島市中区袋町5丁目16)

観覧無料/会期中無休

企画：柳幸典

主催：ゲルトシャイサー・イン・ヴァルト実行委員会

協賛：株式会社大和ラヂエーター製作所、Yanagi Studio

助成：Asahi アサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団、財団法人 朝日新聞文化財団

協力：旧中工場アートプロジェクト実行委員会、深瀬記念視覚芸術保存基金、アートサポーターズ@広島、art space HAP

[参加作家]

柳幸典

上田博文+竹田直樹

豊嶋康子

照屋勇賢

会田誠

アンドレアス・スロミンスキー

下道基行

泉山朗土

平野薫

あいだだいや

赤瀬川原平

竹田直樹

タノタイガ

太湯雅晴

太田三郎

木村育子

榎原泰介

藤浩志

淀川テクニック

トム・フリードマン

ロバート・ワッツ

クリスチャン・ホルスタッド

ゲルトシャイサーズ

入江早耶

高橋知奈美

シフン製作所

ステファン・パリン

ミヒャエル・オットー



関連企画「どうする？広島折鶴」

2007年4月1日（日）～4月22日（日）10:00-19:00（最終入場は閉場の30分前まで）

旧日本銀行広島支店（広島市中区袋町5丁目16）

観覧無料/会期中無休

企画：柳幸典

[参加作家]

K0oY0o

K2

NPO法人折鶴広島 船田奇岑

シンポジウム「地域におけるアートの役割」

会場：広島市環境局中工場（広島市中区南吉島1丁目5-1）見学者説明室

定員160名

4月1日（日）13:00～

主催：旧中工場アートプロジェクト

共催：広島市立大学芸術学部 現代表現領域

協力：Asahi アサヒビール株式会社

入場者数

| | 会場 | 入場者数 |
|-----------------------|-------------|-------|
| シンポジウム | 広島市環境局中工場 | 80人 |
| 「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展 | 旧中工場プラットホーム | 1231人 |
| 「わたしの庭とみんなの庭」展 | カフェ（吉島公民館） | 1048人 |
| | 吉島福祉センター | 613人 |
| | 吉島東集会所 | 450人 |
| 「金庫室のゲルトシャイサー」展 | 旧日本銀行広島支店 | 2050人 |
| | 総計 | 5472人 |

主な来場者

| | |
|--------|------------------------------------|
| 天野 一夫 | (京都造形芸術大学教授、京都／東京) |
| 天野 太郎 | (横浜美術館副館長補佐 学芸教育グループ長、横浜) |
| 荒木夏実 | (森美術館 学芸員) |
| 池田 修 | (BankART1929 代表、横浜) |
| 市原 研太郎 | (美術評論家／京都造形芸術大学教授、東京) |
| 後小路 雅弘 | (九州大学教授、福岡) |
| 大田 秀則 | (オオタファインアーツ代表、東京) |
| 岡部 昌生 | (アーティスト、北海道) |
| 小沢 剛 | (アーティスト、埼玉) |
| 影山 幸一 | (デジタルアーカイブ・美術情報) |
| 加藤 種男 | (アサヒビール芸術文化財団 事務局長) |
| 黒田 雷児 | (福岡アジア美術館学芸課長、福岡) |
| 小松崎 拓男 | (金沢工芸美術大学教授、金沢) |
| 佐藤 辰美 | (大和ラヂエーター製作所ビューイングルーム代表) |
| 佐藤 時啓 | (アーティスト、大宮) |
| 榎木 野衣 | (美術評論家／多摩美術大学准教授、東京) |
| 島本 登夫 | (元広島市文化財団理事長・広島市現代美術館館長／現広島市市民局局長) |
| 新川 貴詩 | (美術ジャーナリスト、東京) |
| 出原 均 | (兵庫県立美術館学芸員、兵庫／広島) |
| 原 久子 | (アートプロデューサー、大阪) |
| 福永 治 | (国立新美術館学芸課長、東京) |
| 港 千尋 | (写真家、多摩美術大学教授、東京) |
| 森 司 | (水戸芸術館現代美術センター主任学芸員、水戸) |
| 森川 紘一郎 | (周南氏美術博物館館長、広島) |
| 山下 里加 | (京都造形芸術大学 講師) |
| 山田 康 | (広島市副市長 (当時)) |
| 山野 真悟 | (ミュージアム・シティ・プロジェクト運営委員長、福岡) |

(50音順・敬称略)

レクチャー・ワークショップ・パフォーマンス等一覧

12/22 (金)

アーティスト講座：あいだだいや、山城大督 「あいだだいや+山城大督 レクチャー」

1/17 (水)

アーティスト講座：竹田直樹 「新しい風景の創造へ ～庭の再生・心の再生～」



1/19 (金)

関連企画レクチャー：榎木野衣

1/20 (土)

松本雅充 「吉島公民館松本館長と見て歩く吉島の町の魅力再発見ツアー」



1/24 (木)

アーティスト講座：藤浩志 「かえっこバザール～エコロジーなアートの実践～」



2/10 (土)

松本雅充 「吉島公民館松本館長と見て歩く吉島の町の魅力再発見ツアー2」

2/11 (日)

スライドトークショー：淀川テクニク 「ゴミがアートに変わる！」

2/18 (日)

レクチャー&ワークショップ：池田朗子 「写真がピョコッ！」



2/23 (金)

ワークショップ：沖中志帆 「作ろう、着けよう、飾ろう！自分だけのつけまつげ！」



2/28 (木)

アーティスト講座：しばたゆり 「アートがつなぐ『あなた』と『わたし』」

3/3 (土)

ワークショップ：高橋佳江 「チクチク、ぬいぬい、いっしょにつくろう靴下人形！」



3/3 (土)

プレゼンテーション&ワークショップ：Nadegata Instant Party

「Nadegata Instant Party が吉島にデートコースをつくれます」

3/10 (土)

ワークショップ：高橋佳江 「チクチク、ぬいぬい、いっしょにつくろう靴下人形！」

3/10 (土)

コラボレーション・ワークショップ：沖中志帆

「作ろう、着けよう、飾ろう！自分だけのつけまつげ！with 吉島ギャルズ」

3/12 (月)

関連企画レクチャー：西野達

3/16 (金)

コラボレーション・ワークショップ：沖中志帆

「作ろう、着けよう、飾ろう！自分だけのつけまつげ！ with 手描友禅友の会」

3/18 (日)

ワークショップ：淀川テクニック 「ハナワ・はなわ・花輪」



| |
|--|
| <p>3/31 (土) アーティスト公開設置：平野薫 「untitled -purse-/¥」</p> |
| <p>4/1 (日) シンポジウム「地域におけるアートの役割」</p>  |
| <p>4/1 (日) オープニングパーティー</p> |
| <p>4/1 (日) アーティスト・パフォーマンス：上田博文+竹田直樹 第1回「ヒロシマのために」</p> |
| <p>4/2 (月) 藤浩志 「かえっこバザール」</p>  |
| <p>4/7 (土) ワークショップ：丸山純子 「春だよ！」</p>  |
| <p>4/8 (日) アーティスト・パフォーマンス：上田博文+竹田直樹 第2回「ヒロシマのために」</p> |
| <p>4/8 (日) ワークショップ：丸山純子 「春だよ！」</p> |
| <p>4/14 (土) Nadegata Instant Party 「ナデガタカップルコンテスト&モデルデート」</p> |

4/15 (日)

ワークショップ：大田祐子 「おてがみプロジェクト」



4/15 (日)

ワークショップ：あいだだいや 「大きなお金のパズル！」

4/22 (日)

上田博文+竹田直樹 「植樹祭」



4/22 (日)

クロージングパーティー



- 主なメディア掲載一覧 -

【新聞】

道面雅量「ごみ施設 アートな再生」『中国新聞』、2007年1月13日、朝刊12面。

道面雅量「リサイクルと芸術融合」『中国新聞』、2007年2月9日、朝刊20面。

小川満久「まちづくり学生プレゼン」『中国新聞』、2007年3月1日、朝刊28面。

田原直樹「地域のアート構想語る」『中国新聞』、2007年3月16日、朝刊12面。

河野揚「本番前に70アート紹介」『中国新聞』、2007年3月19日、朝刊20面。

「大学生が提案 元気な地域と道 アートで地域を活性化」『中国新聞』、2007年3月21日、朝刊31面。

「ぴいぶる 地域とアートを一体化」『読売新聞』（広島版）、2007年3月24日、朝刊30面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ① 放浪生活」『中国新聞』、2007年3月27日、朝刊9面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ② 海上移動事務所」『中国新聞』、2007年3月28日、朝刊11面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ③ 犬島・直島・豊島」『中国新聞』、2007年3月29日、朝刊20面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ④ 広島入港」『中国新聞』、2007年3月30日、朝刊11面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ⑤ もったいない」『中国新聞』、2007年3月31日、朝刊11面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ⑥ アーティストは金の卵」『中国新聞』、2007年4月3日、朝刊9面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ⑦ 街づくりは人づくり」『中国新聞』、2007年4月4日、朝刊11面。

柳幸典「緑地帯 ゴミがアートになる！ ⑧ 広島産アートの花」『中国新聞』、2007年4月5日、朝刊12面。

守田靖「旧施設活用アート発信」『中国新聞』、2007年4月2日、朝刊24面。

高橋誠「新マネー考 第6部 おカネって何？ 虚構性、アートに通ず」『日本経済新聞』、2007年4月11日、夕刊1面。

守田靖「街ごとアート広島に新風」『中国新聞』、2007年4月14日、朝刊11面。

宮丸翔子「「出会い」が支えるカフェ」『中国新聞』、2007年4月16日、朝刊7面。

榎木野衣「ミクロな感覚が生む無限」『山陽新聞』、2007年5月30日、朝刊18面。

「この1年 美術 展覧会ベスト5」『毎日新聞』（東京版）、2007年12月17日、夕刊4面。

【雑誌】

「プチトリップ 拾う？ 捨てる？ 吉島で環境を考えよう」『Cue』、第155号、2007年3月、14頁。

「4月の展覧会案内」『月刊ギャラリー』、第264号、2007年4月、22_23頁。

「地域へ広がる「贈る」アート作家」『Cue』、第157号、2007年4月、11頁。

「地域に根ざしたアートを旗印に、3つの企画展が同時進行」『to you』、第265号、2007年4月、1頁。

岩切澤「藝術家柳幸典和學生主大型藝術活動」『典藏今藝術 ARTCO』、第176号、2007年5月、138頁。

新川貴詩「場と作品がもたらす相乗効果」『美術手帖』、第895号、2007年6月、184_185頁。

山下里加「今月のレポート 広島市 旧中工場アートプロジェクト」『地域創造レター』、第146号、2007年6月、12頁。

竹田直樹「広島が熱くなってきた」『LANDSCAPE DESIGN』、第56号、2007年10月、112_115頁。

Reiko Tomii, "Yukinori Yanagi," Art on Paper12, no. 2 (November/December 2007): 72.

新川貴詩「あらゆる場が展示空間になる!」『美術手帖』第904号、2008年2月、60頁。

「BOOK WORM」『美術手帖』第906号、2008年4月、252頁。

【テレビ】

「スーパーニュース」、テレビ新広島、2007年2月21日。

「スーパーニュース」、テレビ新広島、2007年4月3日。

「スーパーニュース」、テレビ新広島、2007年4月12日。

「ローカルニュース」、NHK 広島放送局、2007年3月18日。

「お好みワイドひろしま」、NHK 広島放送局、2007年4月5日。

「イブニングニュース広島」、中国放送（広島）、2007年4月1日。

「新ひろしま元気百倍!」、中国放送（広島）、2007年4月14日。

「テレビ宣言」、広島テレビ、2007年4月2日。

「ひろしまウォッチ」、ふれあいチャンネル、2007年4月9日_4月15日。

【ラジオ】

「ごぜん様さま」、RCC ラジオ、2007年3月29日。

「緒方かな子のY's cafe」、広島エフエム放送、2007年4月13日。

【ウェブサイト】

影山幸一「文化力で革命—アーティストが創造する広島 「旧中工場アートプロジェクト「柳幸典」」、artscape、2007年4月17日。

http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/community/k_0704.html

原久子、「展覧会レビュー 旧中工場アートプロジェクト」、artscape、2007年5月17日。

http://www.dnp.co.jp/artscape/exhibition/review/070515_03.html

- アンケートからの主な意見 -

【プロジェクトへの評価】

- すごくよいと思います。(多数)
 - 芸術文化のみならず環境問題にも何かヒントを与えるのではないのでしょうか。
 - 視点、発想がユニーク。まちづくりにも既成の考え方でなく、ユニークさが必要。考え方の参考になった。
-
- 芸術という物がもっと身近に感じる事ができるようになる人間が増加すれば芸術文化の発展につながる。
 - 先見的な企画を催されている事に敬意を評します。
 - 子供たちが楽しそうに鑑賞しており、文化の底上げにつながると感じた。
 - あまり芸術美術など触れ合うことが無い人でもバリアフリーって感じで気軽に入れる事はよいことだと思う。

【地域貢献への期待】

- このようなアートプロジェクトが広島市の芸術文化の発展に貢献する(同様の意見多数)
 - 芸術は地域や生活に溶け込んで、人々の生活を豊かにし、影響を与えるものでありたいと思う。社会に還元する責務があると思う。
 - アートについて無知、無関心だった人々の巻き込みをはかる。アートの実践により、まちの空気の自由化を進める。アートによって、まちを知り(まちの人)、まちを愛し(まちの人)まちづくりに参加するきっかけとなる。
 - この雰囲気合った作品が多かったので良かった。こういうのをいたるところでやれば広島市は芸術の町になると思う。
 - ゴミ工場と刑務所のイメージの強い吉島地区を‘アート‘のイメージに変えることが出来る。広島市の原爆・平和のイメージを文化の街に！
 - 今回のようなテーマだと、アートに限定されず様々な社会問題も入ってくるので、より多くの人に関心を持ってもらいやすい(多くの人をまき込める)。
 - 地域の人々がアートを通して仲間になる。そこからまちづくりにつながってくると思う。
 - 場の力と生かすアイデアを表す事はどんどんやってください。
-
- アーティストが地域に出て行うアート活動が、地域の人たちに自分たちの暮らす「まち」について、改めて見直す機会を与え、「まち」に対する愛情の再確認、又、課題の発見に繋がると思う。
 - 芸術の果たす役割(ヒロシマのもつ意味をふまえた上で)世界へのメッセージ。
 - 広島という土地柄、社会的にアピールできるものが多いので活動して欲しい。
 - Hiroshima もアートな街にして欲しい。
 - 吉島という普通の地域を人に知ってもらえる事になるし、アートの身近さを感じられる。
 - 町を歩く。自分の町の再発見。
 - 地域の再発見に結びつく点が良い。
 - まち、地域に関心を持つきっかけになる点が良かったとおもいます。
 - 何気なく通っている道や場所でいつもと違うことがあるときになり刺激になると思う。
 - 吉島の良さ、広島市が持つ雰囲気を改めて感じる事ができた。
 - 地域の人でも忘れられた存在のものが生き返るのではないのでしょうか。

- 地域の人々と芸術が身近に親しくなれる。
- それは作家が意味を抽出し、形にすることが大切だと思います。そこで都市へのアプローチや生活が変化する気がします。美術にはいろいろ可能性があると思う。
- 世界を変えていっている感じがとてもします。貢献していると思います。
- 見応えのある展示と、コミュニティーを巻き込んだプロジェクト、サイトスペシフィックなもの、それぞれに異なるレベルでの問題提起を活性化に。(時間はかかるかもしれませんが) つながるものと信じている。
- 地域展開によって、まちが活気づくと思う。
- 既存の地域財産を現代のアーティストによっていろんな見せ方をするようなあり方(問題提起だったり、魅力再発見だったり)。
- 様々な人が集まる事が、町の活性につながると思うし、様々な考えが反響されるといいと思う。
- 役立つ。県内外から若い人がプロジェクトを見学に訪れる。目的はアートプロジェクトであるが、地域の中で展開されるプロジェクトを回る中で、地域そのものに触れる機会が作られる。若い人々がその地域を知り、認める事で、地域の人々の、地域への誇りや愛着も強くなり、まちづくりへの意識が高まると思う。

【遊休施設の活用への評価】

- 美術館という特別の場所に行くのではなく、日常生活の中で老若男女が接することが重要。市民の文化水準(感性)を高めることが期待できる。
- 使われなくなった施設を有効活用しているのでとても有意義だと思う。
- 美術館などはそれぞれそれなりの役割があると思いますが、こういう地域で展開されるアートプロジェクトは「地域を活性化する」「日常生活では会おう事なかった人との出会いを生んで新たに発展していく」という点でまちづくりに役立つと思いました。
- ごみ処理場が美術作品展示場というユニークなところが良い。(同様の意見多数)
- 面白い試みだと思います。美術館等と違った所にあるのが面白いです。
- アートに触れる事がより身近になっていけば、広島のアート面での文化レベルも上がるのではないのでしょうか。

- とても面白い企画だと思う。美術館ではない場所、堅苦しい感じが無く気軽に楽しめた。
- 「美術館」ではないほうが面白いです。美術館では出来ない「その施設・場所だから出来る事」をどんどんしてほしい。
- 普段見られない場所で作品を見せてもらいいろんな意味で刺激になった。
- 美術館はかしこまった雰囲気だけどこういう形もいいと思った。
- 旧中工場で開催された事がよいと思います。
- 美術館とかではなく、街中でやっていると、普段芸術にあまり関心のない人も見るだろうし、子供も小さいうちから芸術に親しめて良いと思う。
- 色々な表現の仕方を出来る可能性を持つ社会であることが証明できるので良いと思う。
- 普段、美術館に行かない人が、アートに触れる機会となるので良い。
- 私は、美術館でやっても行ってたかもしれないけど「通りがかりで入れる」「何の気構えも無しで入れる」という点で、地域の施設でやるのが良いと思う。
- 美術館とは違った雰囲気、歴史を感じさせるので、このような場所(旧日本銀行広島支店)でやるのは、ぜひもっとやるべきだと思います。
- 旧日銀の使い方を、もっとアート方面中心に考えて欲しいです。

【継続を要望する声】

- 一般の人も多くこられているようで、話題になっています。続けていく事で、認知度も高まり芸術文化の発展に貢献すると思います。何より分かりやすく意外性があるところがよい。
- 行政の助力があってこそその発展と思われる。
- すごくおもしろい。続けて地域の方にもっと根付けば発展していくと思う。
- 継続する事に大きな鍵がある気がします。(継続に期待の意見多数)
- 定期的に続けていくと良いと思う。

【改善点など】

- まだまだ PR 不足で知らない人が多すぎると思う。物事を起こすには準備万端でないと成功しないと思う。
- 会場が離れているのでめぐるのが大変。エリアをもう少し限定できないか。休憩カフェの数を増やす事も。
- ヨーロッパや東京等っぼい外からかぶせられたアートプロジェクトではなく、広島からゆっくりとしみ出して来たようなアートプロジェクトが「発見」されると嬉しいが(難しいでしょうが)。海外のアート展(ヨーロッパの)を見ているようです。
- エレベーターが止まっている事、高齢者には難しい。(旧日本銀行広島支店について)
- 案内のボード他、スタッフの人数、配置に工夫が足りない。

- ドキュメンテーションカタログ -



今年度4月1日に、広島で、柳幸典が総合ディレクターとして指揮を取った「旧中工場アートプロジェクト」の完全ドキュメンテーションカタログが完成しました！展覧会場そのものがひとつの小宇宙を思わせる高度なインスタレーションが評価された、「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展、広島で初の地域展開の展覧会となった「わたしの庭とみんなの庭」展、柳幸典自身がキュレーションし、旧日本銀行広島支店を会場に、「戦争」「貨幣システム」その独占機関としての「国家」に対する問題に鋭く切り込んだ「金庫室のゲルトシャイサー」、それぞれ特色を持つ3つの展覧会が同時に開催された「旧中工場アートプロジェクト」は、各方面から好評をいただき、広島はもとより、全国各地から多くの観客を迎え、大成功をおさめました。カタログは、全278ページ。カラーページ約130ページの作品図版完全収録、モノクロページでは、アートプロジェクトの全ドキュメントからなる豪華なカタログです。

【論文（三本）】

柳幸典（総合ディレクター・美術家）

「芸術が生存するための倫理的可能性について 「国際平和文化都市」ヒロシマのためのアートセンター構想」

榎木野衣（美術評論家・多摩美術大学准教授）

「イメージとのその幽閉、核力的あられ、おmoiあたると庭 旧中工場アートプロジェクトをめぐって」

加治屋健司（美術史家・広島市立大学芸術学部准教授）

「笛吹き男としてのアーティスト 貨幣、アンフォルム、創造都市」

【展覧会各論】

天野一夫（美術評論家・京都造形芸術大学芸術学部教授）

「一ミニアチュールとしての私一」（「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展）

岡本芳枝（広島市文化財団学芸員）

「一広島で初の試みとなった地域展開の展覧会一」（「わたしの庭とみんなの庭」展）

出原均（兵庫県立美術館学芸員）

「一関係性の集合としての展覧会一」（「金庫室のゲルトシャイサー」展）

【各展覧会図版】

約130ページからなるカラー図版。約70組の全作家解説を掲載。

出原均、岡本芳枝、山野真悟（ミュージアム・シティ・プロジェクト運営委員長）、森司（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）、新川貴詩（美術ジャーナリスト）、深瀬鋭一郎（深瀬記念視覚芸術保存基金代表）など、キュレーターや評論家を始めとする豪華な執筆陣。

【DVD付き】

泉山朗土、撮影・編集によるドキュメンテーション映像。

《価格》¥3,000 《サイズ》B4 (257×182×20 mm)、DVD付 278ページ

【取り扱い書店】

●NADiff (WebSite: www.nadiff.com)

せんだいメディアテーク「ナディッフ・ビス」（仙台）、水戸芸術館「コントロールポアン」（水戸）

愛知芸術文化センターB2F「ナディッフ愛知」（名古屋）、東京都現代美術館1F「モット・ザ・ショップ」

東京都写真美術館1F「ナディッフ×10」、東急文化村B1F「ナディッフ・モダン」

東京オペラシティ3F「ギャラリー5」（以上、東京）

●インターネット通信販売「BiBi de Art」

インターネットによるミュージアムグッズ専門ショップ

<http://www.bibideart.jp/pCI13pMMOpMID128pAAOpANOpII265.phtml>